

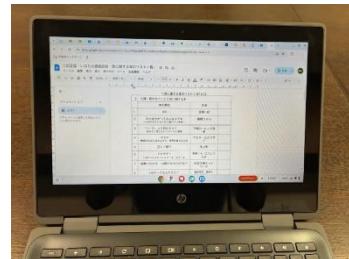
始まる

2学期が始まりました。9月1日は、ひまわりが出迎えてくれました。背丈は60cm程度の小ぶりな品種ですが、さわやかにかわいらしく、みんなで鮮やかな黄色をかたくなに、届けてくれています。主事さんをはじめ教職員が夏休みに水を与え続けた証です。太陽に向かうひまわりの姿は、何か大切なものに向かってまっすぐ進む姿勢を象徴していると聞いたことがあります。その鮮やかな黄色は人々に前向きな気持ちを与えます。

さて、清瀬市教育委員会では、9月の第一週目を命の週間と位置付けています。



本校図書館(ブックランド)では、『いのちに関する本』のコーナーを特設しました。これは小中連携教育の取組で、小中ともに紹介することになっています。また、タブレットから検索が可能となっています。私の好きな本もラインナップ。その展開に吸い込まれていった「夏の庭」や「博士の愛した数式」大学時代にベストセラーとなった「アルジャーノンに花束を」他にも…。ぜひ一読してほしい本ばかりです。



5日には、元バレーボール・アメリカナショナルチーム代表 ヨーコゼッターランドさんを講師にお迎えして、「スポーツは国境を越えて～他者を理解し、共に成長する～」の講演をお聴きし、命について考えました。ゼッターランドさんは、国籍の問題や日本バレーボール界での問題、様々な問題に直面し、その都度逆境を乗り越えてきました。「どんなに悪いボールが上がってきても、素敵なお手本に変えてアッパーに届ける。同じようにどんなに嫌なことを言われても、自分は素敵なお手本に変えて届こう。そうすればいつかまわりも幸せになっていく。」セッターというポジションならではの角度からのお話もありました。



8月31日、9月1日に火の花まつりが開催されました。昨年度、1年生の総合的な学習の時間において、“地域に残していく伝統”アンケートで、上位に食い込んだお祭りです。アンケートで終わりとせず、伝統を残す行動を起こさねばならないと、CS委員会・学校支援本部ご協力で火の花まつりのボランティアとしてお手伝いすることができました。



山戸公園という夏の庭が、笑顔であふれました。クライマックスはお焚き上げ。火まわりに人が集まります。会場のはじマルを描くように。立ちあがる炎に無病息災を祈って。

